

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[50]歳、 勤続年数[30]年、 現場経験年数[30] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[35]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[13]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[45]歳、 勤続年数[20]年、 現場経験年数[20]年、 階級[団員]、 同様の活動 [初めて]、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	署分隊長 (A)	ホース延長指示 (消防団員及び機関員)	分遣所長
経過 2	署機関員 (B)	消防ホース延長 (消防団員と協力)	簡易水道消火栓部署
経過 3	消防団員 (C)	現場到着後、他の団員と共にホース延長	非常召集を受ける
経過 4	署分隊長 (A)	線路を消火ホースが横断するため鉄道機関へ連絡依頼 (本部へ)	本部より鉄道機関へ連絡
経過 5	消防団員 (C)	活動後期に、列車の進行に気づき、横断している消火ホースの切り離しを行う。	
経過 6	列車が通過	現場から 2 0 0 メートル進行し、停止	列車機関員は連絡を受けておらず。
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難・退避がうまくいった。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

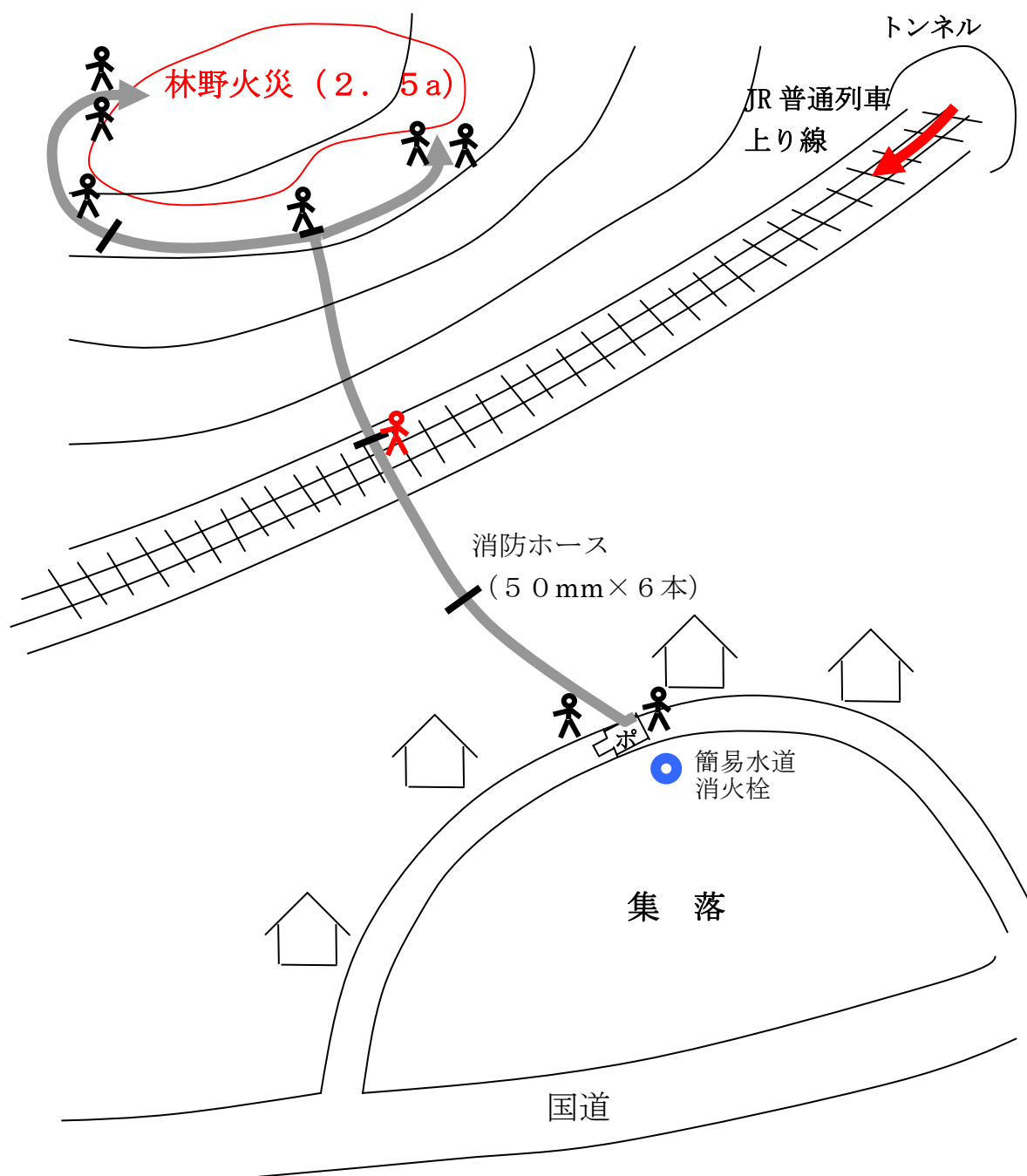
l. その他の理由があった。

はい：鉄道機関への連絡過信

『消防ヒヤリハット』事例状況図

平成14年4月4日（木）

林野火災での消火活動中



・発生日時：平成14年4月4日 午後2時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 50 歳 ・勤続 30 年 ・現場 30 年 ・同様の活動: 初めて	機関員／消防副士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動: 初めて	団員 ・年齢 45 歳 ・勤続 20 年 ・現場 20 年 ・同様の活動: 初めて	
線路沿いの山林火災。 ホース延長指示(消防団員及び機関員)。 非常召集を受ける。 分遣所長 消防ホース延長(消防団員と協力)。 現場到着後、他の団員と共にホース延長。 簡易水道消火栓部署 線路を消火ホースが横断するため鉄道機関へ連絡依頼(本部へ)。 本部より鉄道機関へ連絡。 監視員を配備させなかった。 連絡体制の不備、連絡済を過信したため。 列車機関員は連絡を受けておらず。 線路を横断し消火ホースを延長、消火活動 列車接近。 活動後期に、列車の進行に気づく。 横断している消火ホースの切り離しを行う。 列車停止せず。 危うく消防団員と消火ホースが巻き込まれそうになった。 列車が通過、現場から200メートル進行し、停止。					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因:行動の意志決定に問題があった。
- ・避難・退避がうまくいった。
 - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (指揮・管理について)
- ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)
 - ・隊員の連携が不十分だった。
 - ・隊員が不足していた。
- (その他)
- ・鉄道機関への連絡過信